

日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red
Cross Kyushu International College of
Nursing

Korean speaker's understanding of Japanese
conversation observed through their
interpretation of MANGA

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-10-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 因, 京子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jrckicn.repo.nii.ac.jp/records/429

マンガ読解にみる韓国人学習者の会話理解

因 京子

1. はじめに

本稿は、マンガ読解という作業を通して、韓国語を母語とする日本語学習者（以下、便宜的に「韓国人学習者」と呼ぶ）が日本語の会話の中の発話の含意や意図をどのように理解しているかを分析し、理解上の問題点を明らかにしようとするものである。この調査は、1999年以来科学研究費補助金の援助を得て行っている、マンガを用いた日本語・日本文化理解のための教材を開発する努力の一環をなす。

中級以上の日本語学習者への教育では、学生や技術者や研究者など対人的技能の重要性がビジネス関係者などに比べて相対的に低いと見なされている分野の人々を対象とする場合にも、本人の専門分野で必要とされる技能の教育と並んで社会生活技能の教育が重要であることは既に論じ、その訓練の目標として次の二つをあげた。

①直截的な発話と人間関係上の配慮や攻撃などの含意のある発話の違いと、後者の持つ含意を理解する力を高める。

②表現の選択及びその適切性を支える要素についての意識化を進める。（因 2002b）

マンガ作品の中には現代の日本人の社会的文化的前提を背景に具体的な人間関係の中で交わされる会話の例を多数観察することができる

ため、マンガは上の目標を実現するのに適切な素材となり得る (因 2001)。

韓国人学習者は、母語に体系的敬語や文体レベルなど日本語と共通する特徴を多く持つため、一般に日本語の習得上有利な立場にあると考えられている。しかし、韓国人学習者が善意で発している日本語発話の中に母語話者には芳しくない印象を与えるものがある (守屋2000、因2002 a)、日本人にとってはごく自然な日本語発話をレベルの点で奇異に感じる (李・松村 2003) などの指摘があり、発話の適切性を支える要因の理解や操作には看過できない問題があるようである。こうした問題は、人間関係に深刻な影響を与える誤解を生じさせかねない。李・松村 (2003) の調査の対象者が日本人との接触経験をかなり持っている学習者であることを考えると、接触体験を積むだけでは、発話の適切性を支えている文体的特徴の用法や機能を十全に理解するようになるのは難しいと考えられる。実際の会話場面では多くの場合、音声や表情などを手がかりに大過なく会話を行っているのであろうが、体系的な理解を進めなければ、学習者本人の意図していない含意を生じさせたり、母語話者の発話の含意を曲解したりする危険は減少していかない。本稿の報告する結果は、発話の適切性を支える要因についての学習者の意識化を進めるための具体的方法を開発するための一助となると期待している。

2. 調査

2.1. 対象・素材・データ収集方法

対象者は、韓国釜山大学校において日本人講師による「日本事情」科目を2003年度前期に受講した韓国人学習者20名である。日本

語能力は個人差があるが全員が日本語能力試験2級以上であると判断される。

素材として用いた作品は、森本梢子『研修医なな子』の、第1話と第7話である。これは、1995年から1999年にかけてYoung You誌に連載された連作形式の作品で、一話がほぼ15ページ前後で一話ごとに完結する。内容は、医師国家試験に合格して医局に配属されたばかりの研修医「杉坂なな子」を主人公に研修医たちの日常や回顧的に医学生の日常を描いており、同輩の研修医、同じ医局の先輩医師、看護師、患者、その家族などが多彩な人物が登場する。この作品はかなり綿密な取材に基づいて作られているため、描かれる状況設定や人物の言葉遣いが現実的である。ウチとソトとが同心円状に層を成す職場の人間関係、年齢や社会的地位、職業的地位など複数の要素が複雑に入り組んだ患者との関係などを背景に、多彩な要素の上に成り立つ様々な立場の人々の言葉遣いを観察できる。

即ち、形式的にも内容的にも言語的にも、教材としての条件（因2001）を満たしていると言える。

データ収集は、学習者に作品とワークシート（資料参照）を配布し自宅で記入してもらうという方法によった。実施したのは2003年9月である。ワークシートは九州大学での日本語授業で使用し、タスクの妥当性については確かめられている（因2004b所収）。調査に際しては、所要時間、辞書や参考書の使用、他の学習者や日本語母語話者への相談の可否などについて、いかなる制限もしなかった。フィードバックとして、各エピソードについて1コマの授業を行なった。

2.2. 調査項目

調査によって明らかにしなかったのは、次のような点である。

A: 学習者はどのような語彙の理解が困難であるか。それは何故

か。

- B: 学習者はレベルやジェンダー表現など文体的特徴を認識し、その効果を理解することができるか。また、学習者は、非標準的な文体を認識し、その効果を理解することができるか。
- C: 学習者は、発話にこめられた、必ずしも明示的でない話し手の意図を理解できるか。
- D: 学習者は、話し手の複数の立場（顔）が発話にどのように関与しているか理解できるか。

上の疑問に答えるために設定した項目を以下にあげる。（ ）内に示したのは、ワークシートの番号と課題番号である。尚、実際のワークシートには、調査項目に加えて、マンガの読み方についての基礎知識を確認する課題（1-1・2・3）、マンガ特有の表記についての知識を確認する課題（1-6）、作文練習のための課題（2-7, 8）、全体的な文化・言語の総合的比較観察の課題（2-9）が含まれているが、今回はこれらを分析の対象としない。

A: 語彙の理解

A 1 頻度が低い語、熟語

骨休め（2-1-③）一目置く（同④）やりきれない（同⑨）

A 2 最も基本的ではない意味や用法で使われている語

そうそう（2-1-②）吹く（同①）商売（同⑥）知らない（同⑧）からむ（同⑩）

A 3 俗語・新語

さぼる（2-1-⑤）受ける（同⑩）

A 4 擬態語・擬音語

どかつ（2-2-①）もぐもぐ（同②）じーっ（同③）

だーっ（同④）うっ（同⑤）

B: 文体の効果の理解

B 1 丁寧体と普通体の認識と適用条件

個別の発話 (1-1-①~④)

同一関係における二つのレベルの使用 (2-4)

B 2 非標準的文体の認識と理解

属性的変異：未成熟な話し手の文体 (2-5)

戦略的変異：滑稽さを意図した文体 (2-6)

C：特定の発話行為の認識と方法・効果の理解

C 1 親和的な行為：慰める (1-5-③) (1-6)

C 2 対立的な行為：叱る (2-3-①~④)

D：個人の持つ複数の立場の認識

個人的感情と職業的義務感の衝突の理解 (1-5-①、②、④)

3. 結果と考察

3.1. 語彙の理解

それぞれの項目のサンプルについての正解率をまとめると、下のようになる。

A 1 (熟語など)	75%
A 2 (基本的でない意味)	47%
A 3 (俗語など)	80%
A 4 (擬音語・擬態語)	62%

未知であった可能性の高いA 1とA 2については正解率が高かった。その一方で、「思わず笑い出す」という意味で使われた「吹く」、「責任がない」という意味で使われた「知らない」、「けちをつける」という意味で用いられた「からむ」などについて、辞書に第一番目にあげられるような具象的で基本的な意味に解釈してい

る、また、「そうそうない」の「そうそう」について「肯定の答」と取り違えるなど、基本的な解釈を知っている語についてはその解釈が文脈に当てはまるかどうかの検証を行っていないと疑われる解答が多い。

擬音語・擬態語については、殆ど全てに正しく解答した者が一方、全般的な外れの解答をした者がかなりあり、個人差が大きい。こうした感性的な語彙については自己の感性的判断で処理を行うことができると思う者がかなりあると思われる。

学習者が既存の知識を応用して未知の項目の処理を行うことは自然なことであるが、初級で提供された知識が簡略化されたものであった可能性があることを指摘して、文脈の中で解釈を検証することの重要性と、推理力や感性などの内的リソースだけでなく辞書などの外的リソースを活用することの有効性を意識させる必要がある。

3.2. 文体の効果の理解

B1 丁寧体と普通体の認知と適用条件

ワークシート1の1番のタスクは、発話例の抽出とその文体・発話に反映される使用者の関係について解答するものである。この解答を、文体レベルの区別、普通体の場合はジェンダー表現の認識、その適用の根拠となる関係の認識に着目して3段階で評価した。結果は下のようであった。

多少問題はあるが形式も根拠も認識している	35%
形式の認識ができる	50%
形式の認識ができない。または無回答	15%

これを見ると、文体レベル、及び、男性語の形式は大抵の者が認

識はできると考えてよいことがわかる。

適用条件については、「上下関係」に基づく解釈しか示されなかった。調査に使われた丁寧体の使用例には、「後輩から先輩医師へ」の発話など上下関係に立脚するものだけでなく、「新米医師から患者へ」「ベテラン看護婦から新米医師へ」「先輩医師から新米医師へ」など個人的な敬意や上下関係というよりも職業的公式性を示すなど場の要求に基づく例も含まれていたが、後者の機能への言及はなかった。また、普通体の場合にも、「同僚」「後輩」という上下の関係は認識しているが、上位者から下位者に話すときにはどちらをも選択する可能性があること、また、男性語など多少乱暴な表現の使用は「相手を尊敬する気持ちの欠如」というより「身内意識」「個人的関係」を強調しているという効果については認識されなかった。調査に用いたサンプルには、先輩医師から後輩の医師への指示の表現として、「ついてこい」「聞いてみろ」など男性語の使用されるものと「片付けてね」「見てね」と中性語のものとの2種が提示されていたが、この差異に着目した者はなかった。

ワークシート2の4番では、同一の人物の関係において二つのレベルが使われる例を抽出し、それぞれレベルの使用動機について解説することを求めた。サンプルの中では、医師への質問という明らかに相手に向けられた発話では丁寧体が用いられ、「しんどいわあ」など半ば自分に向けた独り言のように感情を吐露する発話では普通体が用いられている。発話例についてはほぼ全員が正しく抽出していたが、使用動機については無回答が70%を占めた。解答した30%のうち3分の1の10%が「医師としての立場を尊重するときには丁寧体、個人としての立場で若い先生に親密さを示すときは普通体」など、同一の人物であっても場面によって関係性が変化することへの理解を示すことができた。残りの20%は「病気が心配なので丁寧にするのを忘れた」「若い先生だから丁寧にする必要を感じていない」など儀礼の欠如という解釈を示した。ここでは、職業的關係か

ら一步踏み込んだ信頼関係へという関係性の変化という要因と、感情表現の場合には擬似独言というストラテジーを用いることができる(松村・因 2001) という要因によって普通体が実現しているといえるが、後者についての認識は見られない。

普通体と丁寧体の文体レベルの差異について、形式は認識できるものの、使用条件については、社会的上下関係という要因に偏って解釈する傾向が見られる。

B 2 非標準的文体の認識と理解 (属性的変異と戦略的変異)

非標準的文体については、出身地・年齢・社会層など話者の何らかの属性を示す恒常的な使用例として少年の手紙、会話のストラテジーとして一時的に使用した例として「なな子先生」の他人格モード(発話への全面的コミットメントを留保するために一時的に自分には全く相応しくない文体を用いて「他の人格」を装うこと。因 2003、2004) の、冗談の発話を取り上げた。前者については特徴の抽出、後者については発話例の抽出と、それを示す特徴の指摘、効果の指摘を求めた。

少年の文体の特徴としては、「僕のおかあさん」「ごめんなさい」など語彙的なものと、「繰り返しが多い」「直接的」「手紙の一般形式を不自然に踏襲している」など内容・構造に関連する特徴とがある。結果は、語彙と構造の両者の特徴を指摘したのが15%、語彙的特徴だけを指摘したものが60%、誤った指摘または無解答であったのが25%であった。

他人格モードの冗談の例については、60%が発話の抽出ができたが、効果については、「焦りを隠す・困ったとき」など自己防衛という要因の指摘が全体の40%、「気楽な雰囲気を作る」と相手あるいは場への配慮という要因の指摘は5%という結果であった。場への配慮という要因の認識が低いことが注意をひく。冗談めかした発話であることを示す特徴については、「方言の使用」「大げさな内

容」をあげたものが5%あったのみで、他は「人物の表情から判断した」としており、会話ストラテジーを認識するのに言語的特徴を殆ど利用していない実態が窺われる。

発話の全体的な感じを正しく?むことができる学習者であっても文体的特徴を認識し、それを発話の効果に結びつけて解釈することは行っていない。李・松村 (2003) の結果を思い合わせると、このような理解力は実地体験を積むだけでは深まっていかに思われる。文体的特徴は、認知的な意味に直接影響を与えるわけではないが、発話の全体的意味を大きく左右する。教育においては、複数の要因が複雑に絡み合う実際の文脈の中で用例を示して、文体的特徴が果たす機能のダイナミズムを系統的に示すことが必要である。

3.3. 特定の発話行為の認識と方法・効果の理解

今回取り上げたのは、一般的には相手に歓迎されやすいと考えられる親和的な発話行為、「慰める」と、一般的には相手に歓迎されにくいと思われる対立的な発話行為、「叱責する」である。

まず、「慰める」については、示された発話例（注射をうまくできなかった新米医師に対する先輩医師の発話「ああいう血管の出にくい人、わりといるんだ・・・」）の機能を認識する、及び、「慰める」ためにどんな内容のことを言うかを作品の中の実例を参考にして記述するという二つのタスクを課した。発話の機能を認識できたのは60%、無解答が20%、「笑いたいのをごまかしている」「怖いと思っている」などの外れの解答が20%であった。発話行為の内容についての記述は作文力の問題が影響したのか、無解答が40%あった。「気にするなという」「運が悪かったという」など、具体的発話を挙げたものが20%、「原因が他にあることを言う」「失敗したことでなくできたことを強調してほめる」「他にもっとできない人があることを言う」など一般化して書いたものが20%あった。

「直接に言わないで他の元気が出る話をかける（原文のまま）」
「ごはんを食べに連れて行く」など、行動を指摘したものもあった。

「慰める」という善意に基づいた発話行為については、概ねよく理解していると思われるが、「よくあることだ」という先輩医師の発話を他の個人への責任転嫁または非難だと受け取って、「注射がよくできなかつたのを他人のせいにしてしている。血管の出にくかつた患者の責任にしている！！」と述べた解答が1例あった。1例だけではあるが、一般論と個別例についての議論の混同、前提と主張との混同などは重大な対立に進展していく危険を含む。こうした解釈がどのように生ずるのか詳細に見ていく必要があると思われる。

「叱責する」については、「（患者の死を悼む新米医師に）いつまでべそべそやってんだっ」「医者が泣いててどーなるんだよっ」などと叱責する発話例の抽出とその発話意図の記述を求めた。抽出の成功率は82%と高かったが、意図については、見かけ上は叱責しているようでも実は「励ます」という意図をもっていることを認識した者は皆無であった。ここは、発話者が叱っている顔に「汗」という内的困惑を示すマンガの記号が描かれており、また、ワークシートのモデル解答の中にも「たしなめることによって励ましている」という記述があるにもかかわらず、表面的解釈のみに留まってしまった。

見かけ上歓迎されにくい攻撃的な発話の陰に暖かい意図が込められるという現象は、日本語のコミュニケーションにはよく見られる。これは日本語だけに特有のものではなく他の言語にもあり得るとと思われるが、この現象自体が韓国人学習者にとって比較的なじみの薄いものであるのか、外国語であるために言語の表面的な解釈に囚われやすくなるのか、深刻な誤解を生じさせる可能性のある現象であるだけに、詳しく検討する必要がある。

3.4. 複数の立場の認識

一人の人間にもいくつかの立場があり、発話はそれらの立場のしばしば矛盾する要求の妥協の上に成立している。発話者が発話においてどの立場を優先させているか、どんな別の感情を潜ませているのかなど、発話の重層的な意味を学習者がどう理解するかについて、今回は、個人の立場での感情や欲求と職業的立場での義務感との衝突が感じられる発話や行動を3例、サンプルとして調査した。

2つの例は、公的な立場が優勢の関係におけるものである。新米医師の実力に不安を抱く先輩医師及び看護師が、個人の本音としては「下手に手を出さないで」と言いたいのだが、職業的立場としては、医師の実力を低く見ている印象を与えてしまうような発言は控えるべきであるという板ばさみがある。結局、1例では「見ててねー、見るだけでいいからねー」と見かけ上相手の負担を軽減しているかのような発言をし、もう1例では無言で通している。この場合の会話参加者の関係は、もともと職業的関係が優勢で個人的立場が潜在している。これに対し、3例目は私的な立場が優勢の関係におけるもので、学生時代から親友の研修医同士が、本音では注射が大変下手だとわかっている友人の練習台になるのは嫌なのだが、研修医仲間としては断るべきではないという板ばさみに陥り、言葉にまつまっている。この例は、会話参加者同士はもともと非常に親しい友人同士で個人的関係が優勢なのだが、公的立場に立つことを要求されている。しかも、患者など自分たちの医師という公的立場を見せるべき第三者が存在しているわけではないのにそうなっているという点が特徴的である。

結果は、前の2例については、立場からくる要求と本音の葛藤を理解した者が60%と65%であったが、3例目については、注射の練習をやらせたくないのになぜ断れないかについて職業的義務感という要素に理解を示した者はなかった。この点は、フィードバックのときに改めて質問してみたが、「何事につけ人の要求を断るのはやりに

くい」という以上の理解を得ることはできなかった。また、注射相手の研修医なな子が相手の職業的意識を喚起するためにいつもは「新巻」とぞんざいに呼び捨てにしている友人に「先生」と呼びかけている点を指摘して、この意義を質問したが、やはり、職業的義務感に対する訴えであることを理解した者はなかった。韓国人学習者は、公的な立場の陰に私的な個人が潜んでいる現象にはかなりの理解を示すが、非常に親しい個人的関係の中に公的な関係が関与してくる現象の理解は難しいことが示唆される。

3.5. 結果のまとめ

以上、被験者の数が少ないため決定的な結論を出すには至らないが、いくつかの重要な示唆を得ることができた。

まず語彙の理解については、「知っている」「わかる」と考えている語彙についての誤解が目立った。大きな文脈の中で解釈を検証することと外的リソースを積極的に利用することを促進する必要があることが示唆された。

文体の特徴については、学習者は二つのレベルの適用要因として人間関係の上下のみを認識し、また、その機能・効果も固定的に捉えており、レベルの選択的使用によって意図されているいくつかの重要な機能を見落としている。今回の調査で示されたのは、ひとつは特定の個人に対する態度というよりは場の要求に基づく丁寧体使用の「改まりの表示」の機能についての認識の欠如、もう一つは、上位者が下位者に対して用いる普通体の「仲間意識・親しみの表示」という機能についての認識の欠如である。普通体に関して「親しみ」という積極的効果が認識されず、「敬意の欠如」と消極的な解釈しかなされないのは、日本語では韓国語と違って上位者が下位者に対して丁寧体を用いることが至極普通であり、その前提の下で普通体を意図的に選択しているのだということが認識されていないからではないかと考えられる。

非標準的文体については、語彙の変異には認識があるが、ジェンダー表現やレベルなどが発話者に通常使用可能な範囲（「わきまえ」）から逸脱していることを認識することはできず、それが冗談など会話上のストラテジーを成立させる手段として機能していることも認識していない。

発話行為については、相手を攻撃するような発話の裏に配慮を隠している、「変装した善意または利他心」についての認識ができない。この点については、より綿密な調査を行うと共に逆の「変装した悪意または利己心」についての認識ができるかどうか、追求するに値すると思われる。

複数の立場については、公的な関係の中に私的な関係が潜んでいたり、公的な関係から私的な関係への移行が起こったりする現象については認識があるが、その逆の、私的な関係の中で公的関係を尊重すべきである現象の認識は難しい。

4. 終わりに

ある程度予想されたことではあったが、韓国学習者は、文体的特徴の用法や機能について非常に固定的に捉えており、その結果、会話の中の発話に込められた含意を十分に理解しないことがある。丁寧体と普通体は、決して「丁寧体は目上の相手への敬意を示し、普通体は、敬意を払う必要がない相手と認識していることを示す」のではなく、もっと多様で柔軟な使われ方をするもので、本当の意味での「敬意」「丁寧さ」を示すための一手段に過ぎない。今回の調査には含めなかった尊敬語や謙譲語、待遇表現などについても同じことが言える。学習者の認識の不十分さは、社会的身分の上下が日本語より厳密に言語に反映される韓国語からの干渉と教育方法の

不完全さの双方に原因があると思われる。

今回の調査から韓国人学習者の理解が特に不十分であることがわかったのは、上位者から下位者への発話の文体と会話のストラテジーについての理解である。韓国人学習者は上位者の普通体使用を優位性の表示とのみ受け取り、また、「変装した善意・利他心」を認識するのが困難である。これらについて、更に別の用例を収集してより綿密な調査を行うと共に、学習者の理解を促す効果的な教授法を考案することが必要である。

教授法の改善・開発のためには、今回の調査で理解の困難が示唆された項目と今回行わなかった文体的特徴の効果の理解について更なる調査を行うと共に、レベル交替など文体的特徴の使用実態やその要因について日本語と韓国語の談話の対照分析を行う必要がある。

〈 参考文献 〉

- 李奈娟・松村瑞子 (2003) 「日本語と韓国語における敬意表現」
『韓日言語文化研究』第4輯
- 因京子 (2001) 「マンガを用いた日本語教育の視点と方法」『韓
日言語文化研究』第2輯
- 因京子 (2002a) 『留学生のためのちょっと気の張る手紙の書き
方』ビーエフエスアール
- 因京子 (2002b) 「研究留学生を対象とする社会生活技能教育教材
—専門日本語教育と並ぶもう一つの課題—」『韓日言語文
化研究』第3輯
- 因京子・松村瑞子 (2002c) 『女性・少女マンガを素材とする異
文化理解教育の方法開発』平成11～13年度科学研究費補助
金研究成果報告書
- 因京子 (2003) 「マンガに見るジェンダー表現の機能」『日本語
とジェンダー』日本語ジェンダー学会
- 因京子 (2004a) 「ジェンダー表現の機能」『言葉のからくり』英
宝社
- 因京子 (2004b) 『異文化理解・上級日本語教材：マンガで読む日
本社会—働く女性たち』九州大学留学生センター
- 松村瑞子・因京子 (1997) 「日本語の談話におけるスタイル交替
の実態とその効果」『九州大学言語文化言語研究会言
語科学』第33号
- 松村瑞子・因京子 (2001) 『日本語の談話におけるスタイル交替
の実態とその効果についての分析』平成10～12年度科学研
究費補助金研究成果報告 守屋三千代 (2000)

資料

ワークシート 1

提出者氏名

提出日

年

月

日

研修医なな子 CASE1を読んで下の質問に教えてください。

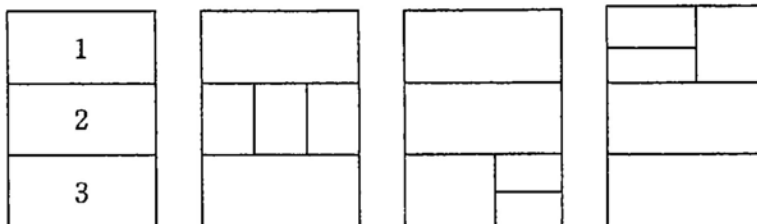
[マンガの読み方]

1. マンガの各ページのコマをどんな順番で読むか。例のように書いてください。

例

①

②



2. マンガでは、いくつかの異なる談話の流れが同時に進んでいることがあります。例えばp. 10には3つの異なる種類の談話が観察できます。下の①～③のそれぞれに該当する実例を全部抜き出して、表の中の事例の欄に書き込んでください。

	談話の種類	事例
①	物語の外にいる語り手による説明	
②	登場人物による会話	
③	物語の外にいる語り手による補足的注釈	

3. 上の①, ②, ③は、視覚的どのように区別されていますか。

4. マンガの絵には独特の誇張的表現が表れます。例えば下の例①～③などです。空欄に適切な記述を入れてください。それから、このエピソードの中から別の例を二つ見つけて説明も書いてください。

例	表現の様態	その意味
①p.11の一番下のコマ	研修医たちの口が幼鳥のくちばしになっている。	研修医たちはまだ一人前でなくて親鳥の後をついて歩くひな鳥のようである。
②p.15の右上のコマ	注射される患者の顔の汗が非現実的な大きさであり、また、顔に縦の線が入っている。	この患者は非常に大きな緊張と不安を感じて、冷や汗をかき、顔色が暗くなっている。
③p.17の3段目の左のコマ	血を抜いた医師の頭に、実際には見えない大きな汗のつぶが書いてある。	この医師が大きな緊張を感じて、冷や汗をかいている。
④		
⑤		

5. マンガでは擬音語や擬態語が数多く使われます。下にあげた例について表を完成してください。

箇所	例	実際に音が出るか	何の音? どんな感じ?
p.8の上段のコマと中段のコマ	カッカッ パタパタ	出る	足音。前者は自信に満ちた歩き方で後者は落ち着きのない
p.16の上段の真ん中と左のコマ	だっ ばたーん	出ない 出る	
p.22の右下の二つのコマ	だらっだ らっ ささっ		
p.26の下段左のコマ	ばあっ		

6. マンガでは、音声の特徴や談話の種類の違いを表現するために、表記に、例えば①～④のような様々な工夫がなされます。同じような工夫の例を二つ以上見つけてください。

- ①大きい声や音を表すために、大きい字にする。

- ②ある場所全体に広がった音を表すために、その場所全体に字に広げる。
- ③勢いのよい発音を現すために、普通はない小さい「つ」をつける。
- ④ 補足的な説明を示すためには、主に、手書きの文字を使う。
- ⑤
- ⑥

[会話のことば]

1. (レベル) 誰かに話すとき文末に普通体を用いるか丁寧体を用いるか、尊敬語を使うか使わないかなど、丁寧さの基本レベルは、その場での話し手の立場や相手との関係によって決まりますが、種々の要素によって多少の変異も生じます。また、同じレベル、例えば「丁寧体」の発話の中にも、非常にかしこまった感じの話し方もあれば、かなり中立的でくだけた感じの話し方もあります。下の対話について観察してください。

話し手 (→相手)	発話の例	話し方	話し手と話し方との 関係
緒方医師 (→なな子)	俺についてこい 聞いてみろ いいんだ 朝の元気はどうした? 喰いに行くか?	普通体 男言葉 近い関係の目上の者 としての話し方	指導者→見習い 仕事上だが個人的 関係 話し手が上。 同じ「医師グループ」
ななこ (→緒方医師)	はい すみません ほんとですかあつ	丁寧体 目下の者として話し方	見習い→指導者 話し手が下。 同じ「医師グループ」
緒方医師 (→患者)	だいぶんひいてます ね 一日2回でいいです しておきましょう	丁寧体 社会的立場をわきま えた話し方	医師と患者 職業上の社会的関 係

男性研修医 (→男性研修 医) p.17	ゆっくり入れるなっ ぶすつとやれ 何で血を抜くんだった あ、ごめん		
先輩医師 (→研修医) p.10-11			
看護師 (→緒方医師) p.13	緒方先生、前の患者 さんのエコーの準 備、できてます		
看護師 (→なな子) p.14	先生、お願いします		

2. (話し言葉の発音)話し言葉では、簡単に発音できるように発音が変化する場合があります。次の①～③のもともとの形はなんですか。

- ①こりゃ ← ()
 ②いてーっ ← ()
 ③こわしちゃって ← ()

3. (会話のストラテジー)会話の中で、冗談を言ったり、ふざけた変な言葉や発音を使ったりすることがあります。その例を観察して表を完成してください。

	ページ	例	普通の形	感じ
①	10	役にたちましえん されてましえん	たちません されてません	方言のよう。
②	11	うっとーしいこつたが	うっとうしいことだが	乱暴に話している感じ
③	15	にやるほど		若者語のよう
④	20	バイ菌ちゃん ブラシくん		

上のような表現をする理由は何でしょうか。

4. (言外の意味) 下の発話には, どんな気持ちがこもっているでしょうか。
- ①p. 11 上段の真ん中のコマ 「見るだけでいいから」
- ②p. 16 2段目の「はあ～っ」 (何が言いたかったのでしょうか。どうして言えなかったのでしょうか。)
- ③p. 16 3段目～4段目 「つ, ついてなかったな。わりにいるんだ, あーゆー血管の出にくい人」「手の甲にうつこともあるし, 足にやることもあるさ」
- ④ p. 18 2段目 「……………」 (どうしてはっきり断れないのでしょうか?)
5. (対人行動) このエピソードの中には誰かが誰かを慰めている場面がいくつかあります。慰めるために, どのようなことを言っていますか。一般化して書いてください。

ワークシート2 研修医ななこ CASE7 「なな子の涙」

提出者氏名 提出日 年 月 日

1. 次の言葉の、使われている文脈での意味を説明してください。

- ①吹く (←吹きそう p. 122)
- ②そうそう (p. 122)
- ③骨休め (p. 124)
- ④一目置く (← 一目置いてる p. 125)
- ⑤さぼる (←さぼってたな p. 129)
- ⑥因果な商売 (p. 130)
- ⑦うける (←うけよう p. 131)
- ⑧知らない (←知らないよ p. 131)
- ⑨やりきれない (p. 132)
- ⑩からむ (p. 134)

2. 次の擬音語や擬態語について説明してください。

	出現箇所	擬音語・擬態語の例	何を現わすか・どんな感じか
例	124話頁 最初のコマ	カチャ	ドアの開く音。乱暴でもなく、特更に静かでもない、普通の開け方。
①	122話頁 最初のコマ	どかつ	
②	123話頁 第1、3コマ	もぐもぐ	
③	124話頁 最後のコマ	じーっ	
④	133話頁 上段左のコマ	だーっ	
⑤	134話頁 中段	うっ	

3. 作品の中から、誰かを叱ったり、たしなめたりしている発話の例を探してください。そしてその発話について、話し手の意図を解説してください。

	出現箇所 発話者	発話	解説
①	p.125 木本夕子	克己っ、これっ	息子が自分の担当医に失礼なことを言ったので叱った。息子の言ったことが的を射ているので慌てている。
②		そーんな暗いことばかり言ったら、かわいい息子さんが心配するよ。	暗いことを言わないようにたしなめることによって、元気を出すよう励ましている。親身な感じを出すためいつもとは違って普通体で話している。
③			
④			

4. 木本夕子さんは、なな子先生と話しているときに、文末が普通体になっている場合と丁寧体になっている場合があります。それぞれの例を探してください。そして、どんな風に使い分けているのか考えて書いてください。

丁寧体の発話

普通体の発話

使い方

5. 133頁下段の、克己のなな子への手紙は、いかにも少年の文章らしい特徴が出ています。それはどんなところでしょうか。

克己は中学生(12~15歳)であると思われます。もし克己が中学生ではなく大学生であったら、同じ内容をどんな風によく書くとおもいますか。

6. なな子は、ときどき冗談めいた口調で話しています。その例をあげてください。

①

②

③

「冗談めいた口調」だとわかるのはどんな特徴からですか。

どんなときに冗談めいた口調を用いるのだと思いますか。

7. 123頁に描かれた出来事を言葉で描写してください。

8. 「研修医なな子」のCASE1と7を読んだ感想、または、このシリーズ

の他の作品の内容の叙述の、どちらかを書いてください。

タイトル：

9. このエピソードの中の行動や話し方に、あなたの出身地の言葉や行動と違うと感じたものがあったら書いてください。 また、教室で習った用法と違うと思ったものがあれば書いてください。

Korean Speakers' s Understanding of Japanese Conversation Observed through their Interpretation of MANGA

Kyoko CHINAMI

This paper looks into how Korean speaking learners of Japanese understand intentions and implications of conversational utterances by examining their interpretation of two episodes of a work of Manga : "Nanako, the intern". The research questions are:

1. What sort of vocabulary they find it difficult to understand and why?
2. Do they recognize two levels of the style and understand their effects?
3. Do they recognize the employment of non-standard styles and its effect?
4. Do they recognize the speaker's less obvious intention in an utterance?
5. Do they recognize competing multiple personas behind an utterance?

The results suggest that the learners recognize the stylistic features but they interpret them to be indicating the speaker's social status alone, and fail to recognize various conversational effects intended by those features. They tend to depend on a more basic or literal interpretation both for vocabulary and intention. Most difficult for them to understand a

re 1) the intentional use of the plain level by a social superior toward a social inferior to indicate endearment; 2) kind intentions indicated by a seemingly aggressive utterance; 3) public position or duty to be valued even in a closest private relationship. A close contrastive study between Japanese and Korean discourses as well as further studies to look into the Korean learners' understanding and failures to understand will be needed to design an effective way to sufficiently teach the functions of stylistic and conversational features of Japanese.